



SDGsのためにわたしたちができること

ごみの出し方 減らし方 今日からすぐにできる

今日からできること① 「ごみの分別(わけること)をする」

ごみは分けて出すことでごみの量を減らすことができます。ごみは分けることで資源にもなります。

分別しないとき	分別したとき
全部ごみになる	もう一度使うことができる

ごみの分け方 大阪市では、種類ごとに、ごみを集めています。ごみは、種類ごとに分けて出してください。ごみの出し方や出す日のことについてわからないことがあれば聞いてください。 問合せ 東部環境事業センター ☎06-6751-5311

容器包装プラスチック	資源ごみ	古紙・衣類(6つの種類に分けます)

普通ごみ(容器包装プラスチック、資源ごみ、古紙・衣類ではないごみ)

普通のごみとして出せるもの

- 大きさが30cmより小さいもの
- 棒状(細くて長いもの)で1mより短いもの
- 食べ残したもの
- おむつ
- プラスチックのもの(容器包装プラスチックではないもの)
- ガラスのもの
- その他

必ず守ってください
ごみの「出し方」「出す場所」「出す時間」は決まっています。必ず守ってください。守っていないときはごみを持って帰らずにそのまま置いていきます。

ごみの分け方や出し方をくわしく書いています。必ず読んでください。

大阪市ホームページ 「やさしい日本語ごみの出し方」

外国語で書いたパンフレット(4カ国あります。)

- ABC of Waste Disposal Rules(英語)
- 垃圾排放规则ABC(中国語)
- 쓰레기 배출 안내ABC(韓国・朝鮮語)
- Cách xử lý rác ABC(ベトナム語)



3つのこと

ごみを減らしましょう

ごみは収集車(ごみを集める車)で集めて、燃やしたり、リサイクルされます。収集車が走ったり、ごみを燃やると、二酸化炭素がでます。二酸化炭素は地球温暖化(昔より地球の気温が上がっていること)の原因です。ごみが減れば二酸化炭素が出るのを減らすことができます。

今日からできること② 「食べ物を捨てる量を減らす」

「食べずに捨ててしまう物」「食べ残し」のごみは、日本で1年間に約522万トンです。(農林水産省および環境省令和2年度推計)

日本人全員が、毎日、お茶碗1杯のご飯を捨てる計算になります。

食べ物を捨てる量を減らすためにあなたができることから始めてください

冷蔵庫の中身を調べる	使う量だけ買う	食べられる量だけつくる	もう一度食べる
冷蔵庫の中身をいつも調べてください。「賞味期限(食べ物をおいしく食べられる期間)」「消費期限(食べ物を安全に食べられる期間)」が来る前に食べてください。	買い物に行く前に冷蔵庫の中身を調べてください。どんな材料があるか調べてください。使うものだけ買ってください。使う量だけ買ってください。	残さずに食べる	もう一度使う
		料理は食べられる量だけつくってください。残さずに食べてください。	食べきれずに残したものや残った材料は冷蔵や冷凍で保存してください。
食べられるぶんだけ注文する	濡らさずに先に切る	ごみの水分を減らす	商品は棚の手前(賞味期限や消費期限の近いもの)から取る
お店で食事をするときは食べられるぶんだけ注文してください。	料理で使う野菜は洗う前に使わないところを切ってください。	ごみから水分を減らしてください。ごみにする前に乾かしてから捨ててください。	すぐに食べるものは棚の手前から取って買ってください。

今日からできること③ 「使えるものは最後まで使う」

MOTTAINAI(もったいない)

日本には「もったいない」という言葉があります。

「まだつかえるのに捨ててしまってもったいない」「まだ食べられるのに捨ててしまってもったいない」

物を大切にできる気持ち

それが「MOTTAINAI(もったいない)」です。

「もったいない」は無駄を無くします。無駄がなくなればごみの量も減ります。「もったいない」は地球にやさしい言葉です。

こわれたものは修理をして使う。長く大切に使う。

リサイクルショップやガレージセール(使わなくなったものを買い取りしてくれます。他の人が使わなくなったものを売っています。)を利用する。

このページに関するお問合せは 企画総務課 4階45番 ☎06-6715-9683 FAX06-6717-1160